

2023 年度

保健医療学部 卒業生・雇用者調査

調査報告書

令和 6 年 2 月 26 日

札幌医科大学医療人育成センター・統合 IR 部門

目 次

I. 卒業生・雇用者調査の概要	2
1. 目的	2
2. 方法	2
3. 調査内容	2
4. 回収率	2
5. 結果概要	3
(1) 調査方法の検討（回収率）	3
(2) DP の評価・到達度（卒業生調査・雇用者調査）	3
(3) カリキュラム（専門教育科目・一般教育科目・統合学習等：卒業生調査）	4
II. 卒業生調査：卒業生による自己評価	5
1. DP の評価・到達度	5
2. カリキュラムの評価	5
(1) 一般教育科目の評価	5
(2) 専門教育科目の評価	9
(3) 統合学習および本学の教育の特徴の評価	11
(4) 本学で学んだことの中で、卒業後とくに有用であったこと	13
III. 雇用者調査：雇用者による卒業生の他者評価	15
1. DP の評価・到達度	15
2. 雇用者による卒業生の評価（自由回答）	18
IV. 卒業生による自己評価と雇用者による他者評価の比較	20
V. 資料	21
1. 教育目標、ディプロマポリシー（2013 年度策定）	21
2. 依頼文書・調査票：卒業生調査	23
3. 依頼文書・調査票：雇用者調査	29

I. 卒業生・雇用者調査の概要

1. 目的

2017（平成 29）年度カリキュラム及び、2013 年度に策定した保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DP とする）のもとで教育を受けた、本学卒業生と卒業生が勤務する施設・企業・自治体の管理職を対象とした調査を行い、多角的に本学卒業生の DP の到達度を評価する。また、調査の結果を旧カリキュラムの評価と次期カリキュラム改定に活用する。

2. 方法

調査は 2023 年 7 月～8 月に行った。

卒業生調査は、2017・2018・2019 年度に入学した卒業生 266 名で、卒業時に大学に届け出のあった住所に調査票と依頼文書を郵送し、調査協力を依頼した。回答・回収方法は郵送および Web 入力 (Qooker) の併用とした。

雇用者調査は、上記卒業生が就職した施設の各部門責任者 119 名で、各施設の部門責任者宛に調査票と依頼文書を郵送し、調査協力を依頼した。回答・回収方法は郵送のみとした。

3. 調査内容

本調査は、教育目標、教育研究評議会で承認された DP（2013 年版）、カリキュラムポリシーと 2018 年に行われた総合教育評価(教務委員会)の調査項目を参考に、医育センター統合 IR 部門、保健医療学部 IR 連携 WG、拡大学科長会議を通じて調査項目を作成した。調査内容は基本属性（性別、入学年度、現在の職種、勤務形態、勤務地、職場の施設種別）、DP の評価・到達度（18 項目）、カリキュラムの評価（一般教育科目 8 項目、専門教育科目 9 項目、統合学習 3 項目、本学の特徴 4 項目）で構成されている。

4. 回収率

	学科名	入学年度	学生数	調査対象者数*	回収数	有効回収率(%)
	・卒業生調査	看護学科	2017	50	49	17
2018			50	49	13	26.5
2019			49	49	12	24.5
小計			149	147	42	28.6
理学療法学科		2017	18	16	4	25.0
		2018	20	20	7	35.0
		2019	20	20	6	30.0
		小計	58	56	17	30.4
作業療法学科		2017	20	17	7	41.2
		2018	20	19	4	21.1
		2019	19	19	4	21.1
		小計	59	55	15	27.3
学部全体		合計	266	257	74	28.8

*調査依頼の封書及び e-mail の双方が不達の卒業生を除いた数とする。

・雇用者調査	学科名	学生数	対象組織数 (附属病院内)	調査組織数* (附属病院内)	回収数	回収率 (%)
	看護学科	149	57 (24)	56 (23)	30	53.6
	理学療法学科	58	24 (1)	24 (1)	16	66.7
	作業療法学科	59	38 (2)	38 (2)	25	43.1
	学部全体	266	119 (27)	118 (26)	71	60.2

*協力不可（調査対象者が長期不在のため等）の対象組織を除いた数とする

5. 結果概要

(1) 調査方法の検討（回収率）

卒業生 266 名に対して、卒業時に登録した住所（郵送）もしくは e-mail に調査票が届いたのは 257 名（96.6%）だった。2017 年度入学生で未達の割合がやや高かったが、卒後 3 年目程度であれば、卒業時の登録住所・e-mail を活用した方法が有効であることがわかった。回収方法については、web 回答が 68 件（91.9%）、郵送回収が 6 件（8.1%）で多くは web 回答であったが、郵送回収も貴重なデータであることから、web 回答に限定した調査方法への変更には検討を要する。有効回収率は 28.8%と低調だった（2018 年の卒業生 Line を用いた調査の回収率は 54.1%）ため、次回の調査においては、謝礼の提供なども含めて回収率を上げる対策を講じる必要がある。

(2) DP の評価・到達度（卒業生調査・雇用者調査）

卒業生の自己評価では、18 項目中 16 項目において“4. まあそうである”が多く、概ね肯定的であった（図 1, 表 1）。なかでも評価がとくに高い項目は、項目 11[患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる（平均値=4.46）]と、項目 7[医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる（平均値=4.43）]だった。相対的に評価が低いのは、項目 5[国際的な視野を有している（平均値=2.80）]と、項目 6 [保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている（平均値=3.45）]であった。

一方、雇用者による卒業生の DP の評価・到達度では、18 項目中 16 項目において“4. まあそうである”または“5. そうである”が多く、他者評価も概ね肯定的であった（図 5, 表 5）。その中で評価がとくに高い項目は、項目 11 [患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる（平均値=4.27）]、項目 14 [自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている（平均値=4.38）]で、相対的に評価の低い項目は、項目 5[国際的な視野を有している（平均値=2.99）]と、項目 6 [保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている（平均値=3.24）]だった。卒業生の自己評価と雇用者の他者評価を比較すると、評価の高い・低い項目はほぼ一致しており、これにより本学の教育における強み/弱みが明確にされたことと、卒業生が自身の能力評価を適切に行う力が養われていることが明らかにされた。

今回の調査結果と 2018 年調査を比較すると、卒業生調査では全ての項目で今回の調査が前回調査の得点を上回っていた。雇用者調査においても、12 項目で今回の調査の得点のほうが高くなっていたが、変化は小さく「微増」と言える。卒業生調査は前回調査と比較して回収率が低く、標本における選択バイアスが生じている可能性（自己評価の高い学生に調査協力が偏っている）もあり、以前よりも学生の能力が伸長していると結論づけることはできない。雇用者調査においては、項目 9

[医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）として従事するために必要な技術を身につけている]は（2018年平均値=3.91，2023年平均値=3.70）は得点が大きく下落しており、コロナ禍での教育の結果として、卒業生の実践力が低下している可能性も考えられる。

学科別にみると、卒業生調査では、看護学科の得点（平均値=4.24）が理学療法学科（平均値=3.86）、作業療法学科（平均値=3.91）に比較して高くなっていた。一方で、雇用者調査では作業療法学科の得点（平均値=4.11）が、看護学科（平均値=3.79）、理学療法学科（平均値=3.77）よりも高くなっていた。自己評価と他者評価に過大な乖離が生じないように、学生の自己評価の認識のありかたを指導していくことが必要かもしれない。

（3）カリキュラム（専門教育科目・一般教育科目・統合学習等：卒業生調査）

卒業生による一般教育科目の評価は、8項目中6項目で“4.まあそうである”が多く、概ね肯定的な評価をしていた（図2，表2）。その中でも、項目8[学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた（平均値=3.96）]、項目4[人間を総合的に理解するための学習内容が充実していた（平均値=3.95）]が他の項目より高い評価であった。一方、項目7[学習量の負担が大きかった（平均値=2.81：逆転項目）]と項目5[教育内容の重複や不足している点があった（平均値=2.84：逆転項目）]は評価が低かった。また、2018年度調査との比較では、全ての項目において2023年度調査の得点が高くなっていた。

卒業生による専門教育科目の評価は、9項目中8項目において肯定的な回答が得られ、とくに項目1[興味や関心のある科目が設定されていた（平均値=4.32）]、項目9[学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた（平均値=4.30）]の得点が高くなっていた（図3，表3）。逆に、項目7[学習量の負担が大きかった]では同意する回答が46.0%と多く、学生は負担として感じていた。学科別の比較では、作業療法学科で評価の低い項目が多く、とくに項目2[コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた（平均値=3.60）]、項目4[人間を総合的に理解するための学習内容が充実していた（平均値=3.87）]の評価が低かった。一方で、項目7[学習量の負担が大きかった]は作業療法学科の得点が低く（平均値=2.33）（負担を感じていない）、看護学科で同意する意見が多くなっていた（平均値=3.86）。2018年度調査との比較では、全ての項目において評価が向上していたが、より一層の改善が望まれる。

卒業生による統合学習（保健医療総論・地域医療合同セミナー）および本学の教育の特徴に関する評価については、全体的に“4.まあそうである”が多く、肯定的な回答が得られた（図4，表4）。とくに項目4[少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った]は“5.そうである”が半数弱（48.6%）であり、本学部の特徴である少人数教育の有効性が学生の実感としても表現される結果となった。また、地域医療合同セミナーについては、必修選択化される以前のカリキュラムであり履修者は少ないが、肯定的回答が86.4%と多かった。また、2018年度調査との比較では、全ての項目（項目6を除く）において評価が向上していた。

II. 卒業生調査：卒業生による自己評価

1. DP の評価・到達度(図 1, 表 1)

DP の評価・到達度については、18 項目中 16 項目において“4. まあそうである”が多く、概ね自己評価は肯定的であった。自己評価がとくに高い項目は、項目 11[患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる(平均値=4.46)]と、項目 7[医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる(平均値=4.43)]であった。一方、項目 5[国際的な視野を有している(平均値=2.80)]と、項目 6[保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている(平均値=3.45)]は、“3. どちらでもない”“2. あまりそうではない”の回答が多く、他の項目より評価が低くなっていた。

学科別にみると、看護学科(平均値=4.24)が、理学療法学科(平均値=3.86)、作業療法学科(平均値=3.91)に比較して得点が高くなっていた。なかでも、項目 16[他職種の技術や専門性を理解している(平均値=4.55)]、項目 9[医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている(平均値=4.21)]が、他の学科の得点よりも高くなっていた。

同じ調査項目で行われた 2018 年の調査と今回の調査を比較すると、得点の高いまたは低い項目の傾向は概ね同じであったが、全ての項目において今回の調査の得点が 2018 年調査の得点を上回っていた。とくに、項目 13[医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる(2018 年平均値=3.63, 2023 年平均値=4.07)]は得点が大きく上昇していた。

2. カリキュラムの評価

(1) 一般教育科目の評価(図 2, 表 2)

一般教育科目の評価は、8 項目中 6 項目で“4. まあそうである”が多く、全体的に概ね肯定的な評価が得られた。その中でも、項目 8[学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた(平均値=3.96)]、項目 4[人間を総合的に理解するための学習内容が充実している(平均値=3.95)]が他の項目より高い評価であった。一方、項目 7[学習量の負担が大きかった(平均値=2.81: 逆転項目)]と項目 5[教育内容の重複や不足している点があった(平均値=2.84: 逆転項目)]は、“3. どちらともいえない”の回答が他の項目よりも多く、相対的に低い評価となっていた。

学科別にみると、看護学科の卒業生は、作業療法学科・理学療法学科の卒業生より高い評価をしていた。ただし、項目 7[学習量の負担が大きかった]の項目については、看護学科で同意する回答が多く、作業療法学科で同意する回答が少ないなど、学科による回答の差がみられた。また、作業療法学科では、項目 5[教育内容の重複や不足している点があった]への同意が、他の学科よりも多くなっていた。

2018 年度調査との比較では、全ての項目において 2023 年度調査の得点が高くなっていた。相対的に評価の低い項目 5[教育内容の重複や不足している点があった]、項目 7[学習量の負担が大きかった]についても、前回調査に比較して肯定的な回答の増加が認められた。

自由回答では、「経済等の社会的な内容」、「歴史(対象理解のためには時代背景を学ぶことも重要)」、「普段身に付けることのできない社会や英語」等の科目の充実を求める意見がみられた。

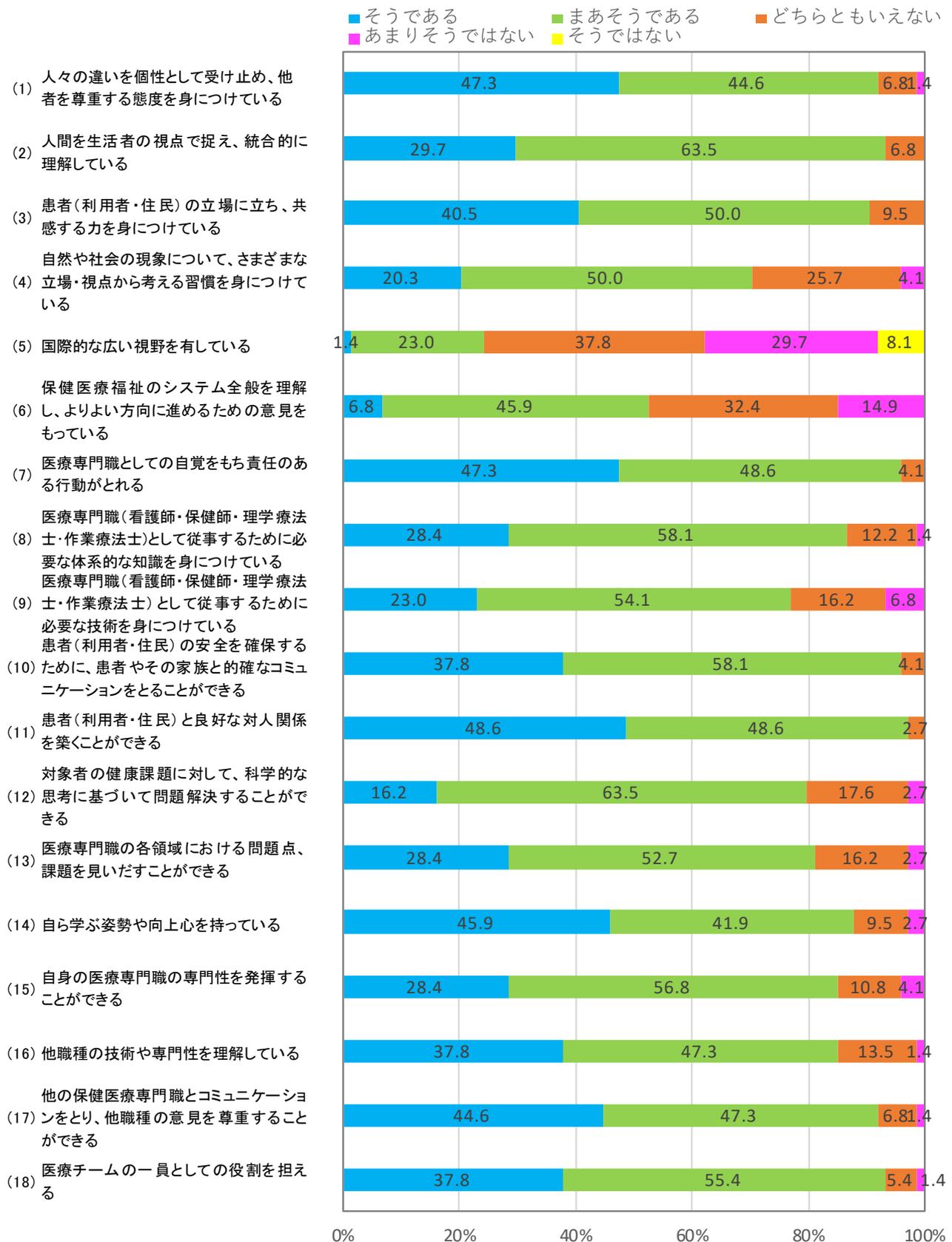


図1. 卒業生によるDPの評価・到達度

表1. DPの評価・到達度（学科別・年度別）

	卒業生 (2023)				卒業生 (2018)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.38	4.45	4.29	4.27	4.26
(2) 人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	4.23	4.31	4.12	4.13	4.06
(3) 患者(利用者・住民)の立場に立ち、共感する力を身につけている	4.31	4.43	4.18	4.13	4.20
(4) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.86	3.95	3.88	3.60	3.67
(5) 国際的な広い視野を有している	2.80	2.88	3.00	2.33	2.76
(6) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	3.45	3.52	3.12	3.60	3.08
(7) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.43	4.60	4.18	4.27	4.24
(8) 医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	4.14	4.31	3.88	3.93	3.77
(9) 医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている	3.93	4.21	3.53	3.60	3.57
(10) 患者(利用者・住民)の安全を確保するために、患者やその家族との確かなコミュニケーションをとることができる	4.34	4.50	4.12	4.13	4.10
(11) 患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる	4.46	4.57	4.29	4.33	4.29
(12) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	3.93	4.07	3.82	3.67	3.68
(13) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	4.07	4.26	3.76	3.87	3.54
(14) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.31	4.43	4.12	4.20	3.99
(15) 自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	4.09	4.31	3.82	3.80	3.72
(16) 他職種の技術や専門性を理解している	4.22	4.55	3.59	4.00	3.94
(17) 他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	4.35	4.57	3.82	4.33	4.12
(18) 医療チームの一員としての役割を担える	4.30	4.45	4.00	4.20	3.92
平均得点	4.09	4.24	3.86	3.91	3.83

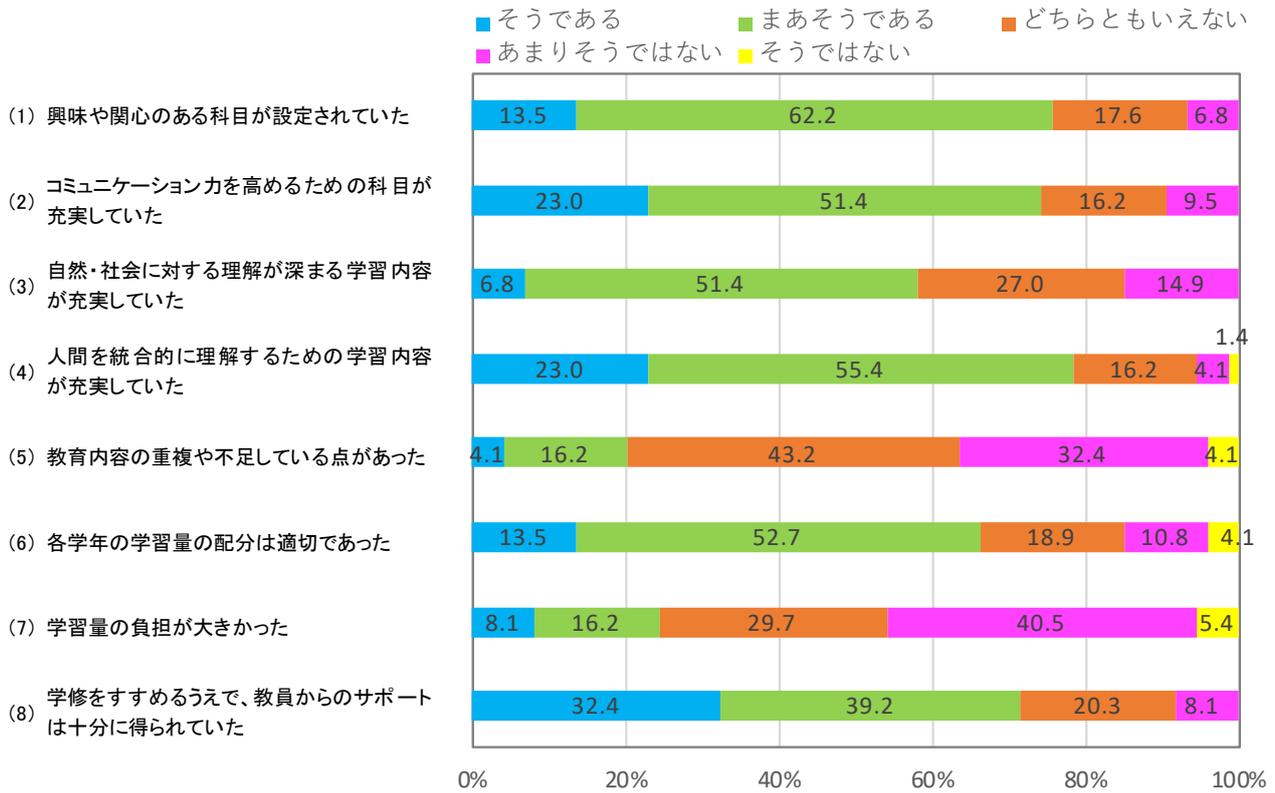


図2. カリキュラムについて：一般教育科目

表2. カリキュラムについて：一般教育科目（学科別・年度別）

	卒業生 (2023調査)				卒業生 (2018調査)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 興味や関心のある科目が設定されていた	3.82	4.00	3.65	3.53	3.56
(2) コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	3.88	4.19	3.53	3.40	3.49
(3) 自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	3.50	3.55	3.47	3.40	3.19
(4) 人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	3.95	4.14	3.71	3.67	3.54
(5) 教育内容の重複や不足している点があった (逆転項目)	2.84	2.79	2.76	3.07	3.19
(6) 各学年の学習量の配分は適切であった	3.61	3.52	3.82	3.60	3.22
(7) 学習量の負担が大きかった(逆転項目)	2.81	3.10	2.59	2.27	3.03
(8) 学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	3.96	4.17	3.71	3.67	*2023年からの追加項目
平均得点(逆転項目は逆転後の得点を利用)	3.63	3.71	3.57	3.49	3.25

(2) 専門教育科目の評価 (図 3, 表 3)

専門教育科目の評価では、9 項目中 8 項目において肯定的な回答が得られ、とくに項目 1 [興味や関心のある科目が設定されていた (平均値=4.32)]、項目 9 [学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた (平均値=4.30)] の得点が高くなっていた。逆に、項目 7 [学習量の負担が大きかった] では、同意する回答が 46.0%と多く、学生の負担として感じられていた。

学科別の比較では、作業療法学科において評価の低い項目が多く、とくに項目 2 [コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた (平均値=3.60)]、項目 4 [人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた (平均値=3.87)] などの項目が、他の学科に比べて得点が低くなっていた。一方で、項目 7 [学習量の負担が大きかった] は作業療法学科の得点(平均値=2.33)が低く (負担を感じていない)、看護学科(平均値=3.86)で同意する意見が多くなっていた。

2018 年度調査との比較では、全ての項目 (項目 9 は新項目のため非該当) において評価が向上していた。とくに項目 4 [人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた]、項目 5 [教育内容の重複や不足している点があった]、項目 6 [各学年の学習量の配分は適切であった] については、その変化(評価の向上)が大きくなっていた。

自由回答については下記の意見・評価の記述があった (記載は加工済み)。

<看護学科>

- ・ 附属病院があるため、職種や地域の枠を超えた事例に触れながら学習することが出来た (専門職としての目標を持って前に進むことに繋がっている)。
- ・ 実習や日々の看護の学習において、特にレポートや記録物の分量がとても多く負担が大きかった。
- ・ 2 年から 3 年へのステップアップの幅が大きすぎる (特に看護過程の学習)。
- ・ 1 年生と 3 年生での課題の負担。手書きでの提出のため時間がかかり身体的な負担も大きかった。
- ・ 授業の感想及び質問等その場で記載するもの以外のレポート等は、手書きではなく、修正しやすさを加味しても電子入力可にして欲しかった。
- ・ 課題が多いと思いましたが、その経験が知識・技術につながっており、感謝している。
- ・ 2 名の学生で 1 名の患者を担当するとき、学生の記録のあり方について配慮してほしい。
- ・ アセスメントの書き方を、例示を見せてからさせてほしい。グループワークにおいても学生全員のなんとなくの意見で看護の方針を決めていた。
- ・ 学習効果が期待できないような学習法 (ノートの取り方の指定や枠内に文字をたくさん書く提出物)。

<理学療法学科>

- ・ 段階ごとに学習できてよかった。
- ・ 教員からのサポートが得られやすかった。
- ・ 少人数のため、講師との距離が近い状況で学習できた。
- ・ キャリアデザインを受講したかった。

<作業療法学科>

- ・ 充実していて、臨床に出てとても活きている。
- ・ ケース報告や評価のテストはやっていてよかった。
- ・ 人間関係やコミュニケーションの面で適応できていない人へのサポートや面談が不十分な点があり、就職後に非常に苦労しているケースがある。

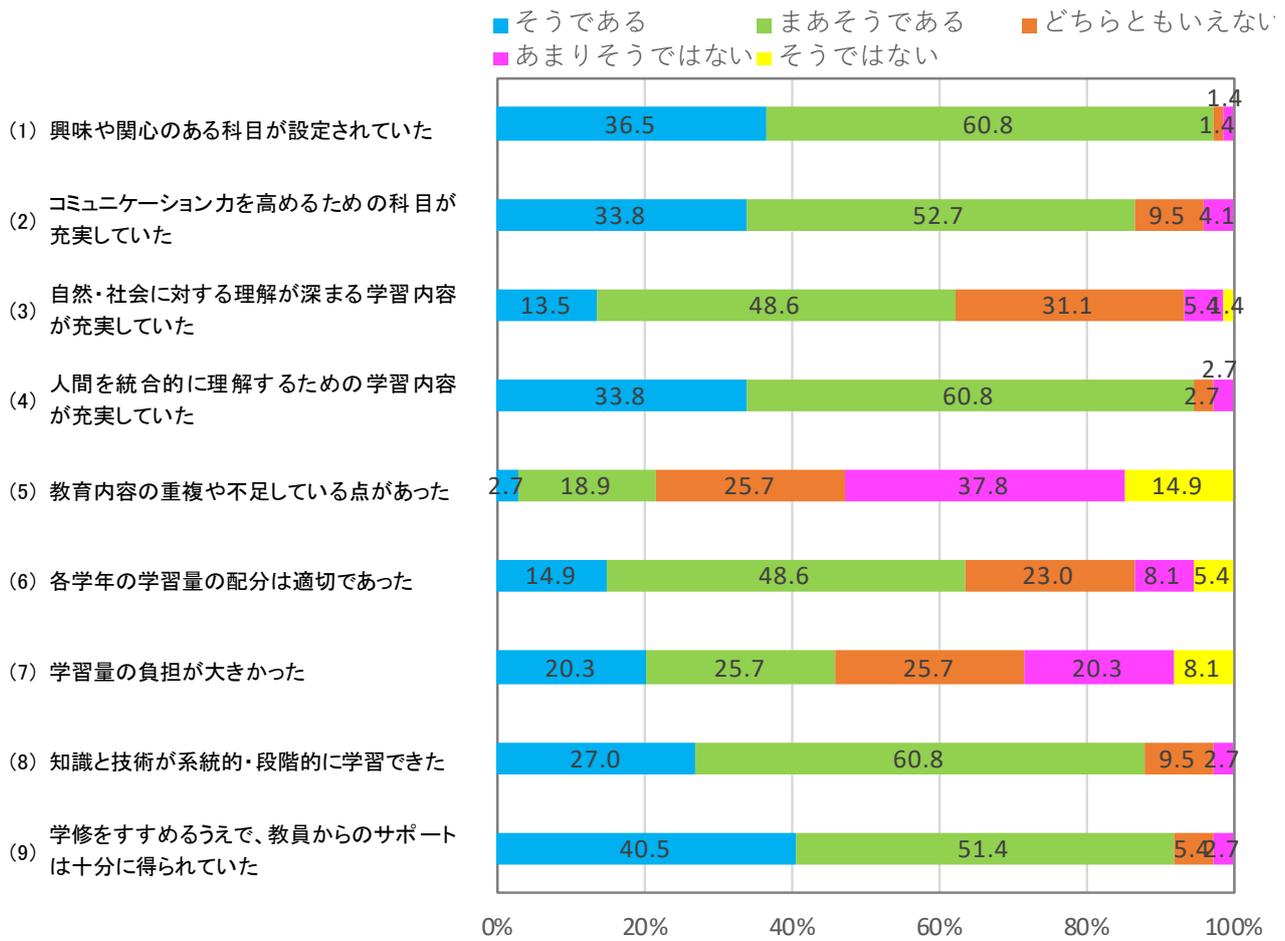


図3. カリキュラムについて：専門教育科目

表3. カリキュラムについて：専門教育科目（学科別・年度別）

	卒業生 (2023)				卒業生 (2018)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 興味や関心のある科目が設定されていた	4.32	4.40	4.35	4.07	4.24
(2) コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	4.16	4.40	4.06	3.60	3.96
(3) 自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	3.68	3.76	3.71	3.40	3.39
(4) 人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	4.26	4.45	4.12	3.87	3.86
(5) 教育内容の重複や不足している点があった (逆転項目)	2.57	2.48	2.59	2.80	3.10
(6) 各学年の学習量の配分は適切であった	3.59	3.52	3.94	3.40	3.14
(7) 学習量の負担が大きかった(逆転項目)	3.30	3.86	2.76	2.33	3.34
(8) 知識と技術が系統的・段階的に学習できた	4.12	4.26	4.06	3.80	3.86
(9) 学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	4.30	4.33	4.41	4.07	*2023年から の追加項目
平均得点(逆転項目は逆転後の得点を利用)	3.84	3.87	3.92	3.67	3.50

(3) 統合学習および本学の教育の特徴の評価 (図 4, 表 4)

統合学習および本学の教育の特徴の評価では、全体的に“4. まあそうである”が多く、とくに項目 4 [少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った] は“5. そうである”が半数弱 (48.6%) であり、本学部の特徴である少人数教育の効果が、学生の実感としても表現されていた。また、地域医療合同セミナーについては、必修選択化される以前のカリキュラムであるため履修者は少ないが (複数年の受講者 5.4%, 単数年の受講者 24.3%), 卒業生からの肯定的回答は 86.4% と高かった。

学科別の評価では、作業療法学科において、項目 1 [保健医療総論の内容が充実していた (平均値=3.67)], 項目 4 [少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った (平均値=3.87)], 項目 6 [学内での学習と臨地・臨床実習は段階的・有機的に展開されていた (平均値=3.47)] の項目の得点が低く、項目 2 [地域医療合同セミナーの内容が充実していた (平均値=4.60)] の得点が高かった。看護学科では、項目 5 [授業の予習・復習内容が提示され、自発的・継続的に学ぶことができた] の得点が他の学科よりも高くなっていた (平均値=4.05)。

2018 年度調査との比較では、全ての項目 (項目 6 を除く) において評価が向上していた。

自由回答については下記の意見・評価の記述があった (記載は加工済み)。

<保健医療総論>

- ・医療チームとして動く意識をつける上で重要な科目だと思う。集団での動き方への考え方を評価指導していただけたらもっと良かったと思う。
- ・異なる職種の現場で実習でき勉強になった。
- ・3 年生で他職種のシャドーイングを行う実習は他の科目では得られない学びがあり非常に役立った
- ・他職種の役割や専門性について見学を通して学ぶことができ、理解が深まった。
- ・職業理解に役立った。
- ・それぞれの視点の違いも学ぶことができ、とても勉強になった。
- ・翌年に多職種の視点から事例検討できるので発見も多かった。
- ・小グループでの討論を行うことで、他職種と対等に討論を行うことができると感じました。
- ・他学科の人との交流が生まれていたのもそこはとてもよかった。
- ・他学科とコミュニケーションを図る良い機会であったと思う。
- ・コロナ禍におけるオンラインでの意見交換が難しかった。
- ・カンファレンスの仕方から学習させて、意見を出せる状態を整えて欲しい (患者の支援方針について意見を合わせる学習について)。
- ・医学部との関わりもあると、さらにチーム医療について学ぶことができたのではないかなと思う。
- ・開講時期については疑問。

<地域医療合同セミナー>

- ・地域医療に興味があり、取りたい気持ちはあったが、単位に反映されないことが気になった (単位と認められれば複数年受講してもよいと思った)。
- ・単位がない科目は興味があっても受けない。受ける余裕がない。
- ・他学部と知り合い、交流のきっかけとなった。現在も交流があり有用だった。
- ・卒業単位に参入されない点で少々勿体無いと感じる。医学科と合同で学習できるのは貴重だと思うので、もう少し受講しやすければと感じる (今となっては 4 年間選択すればよかったと思っている)。

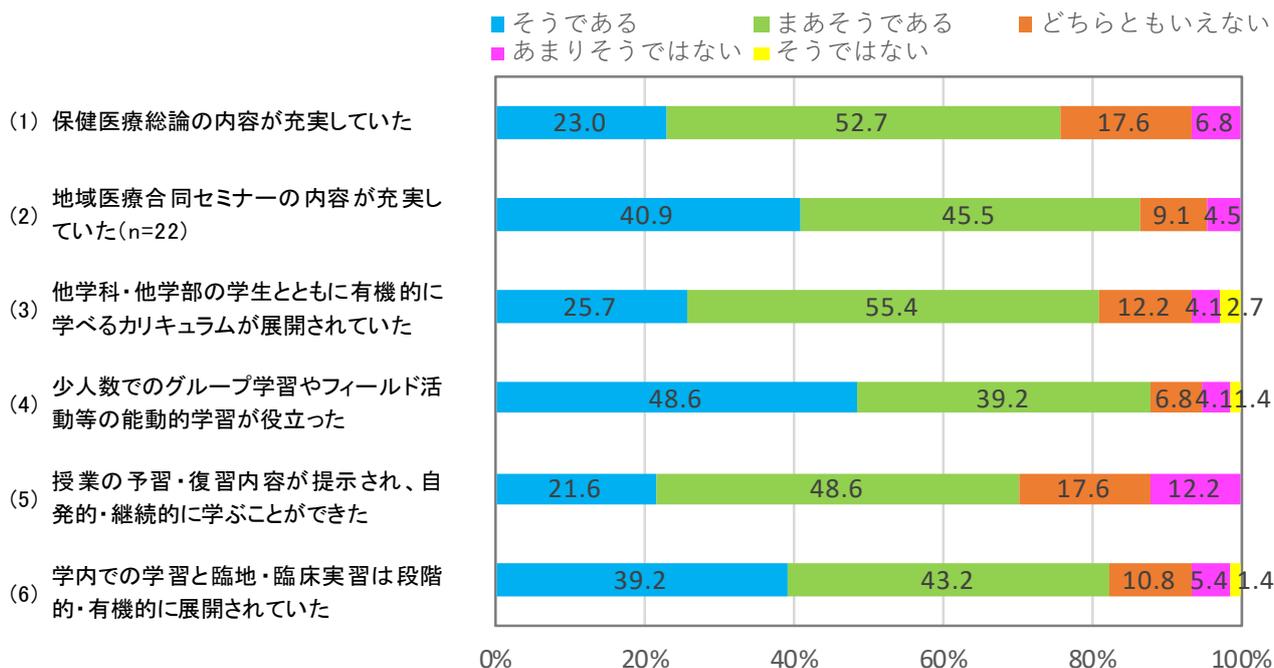


図4. 統合学習・本学の教育の特徴の評価

表4. 統合学習・本学の教育の特徴の評価 (学科別・年度別)

	卒業生(2023調査)				卒業生(2018調査)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 保健医療総論の内容が充実していた	3.92	4.00	3.94	3.67	3.59
(2) 地域医療合同セミナーの内容が充実していた(n=22)	4.23	4.13	4.00	4.60	3.19
(3) 他学科・他学部の学生とともに有機的に学べるカリキュラムが展開されていた	3.97	3.98	4.00	3.93	3.68
(4) 少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った	4.30	4.43	4.35	3.87	4.14
(5) 授業の予習・復習内容が提示され、自発的・継続的に学ぶことができた	3.80	4.05	3.53	3.40	3.39
(6) 学内での学習と臨地・臨床実習は段階的・有機的に展開されていた	4.14	4.33	4.24	3.47	*2023年からの追加項目
平均得点	4.06	4.15	4.01	3.82	3.60

(4) 本学で学んだことの中で、卒業後とくに有用であったこと

<看護学科>

- ・グループワークが多かったため、様々な意見を聞きながらまとめ、結論づける体系が身についた
- ・看護を行う上での思考過程。グループワークの中で考える力が身につき、職場での実践に活かすことができていると感じる。
- ・グループワーク後に先生方からの考えや意見をもらい、学びが深まった。視野が広がり患者の個別性を捉えようとするところに繋がられている。まだまだ経験が浅いため、引き出しを増やせる機会が大学で得られるのは大きかったと感じる。
- ・グループワークが多かったことで職場のカンファレンス等にすぐ馴染むことができ、年齢や立場関係なく自分の考えをしっかりと伝える姿勢が身についたのでよかった。
- ・グループワークがとて多くコミュニケーション能力を培うことができたと感じている。就職後も学生時代と同様に自分の意見を伝えることと相手の意見を聞き入れる力が必要であり、その力を学生時代に知らず知らずのうちに身につけることができていたんだと思う。
- ・専門教育科目や保健医療総論、地セミなどの多くの科目の授業・実習でグループで取り組む形式は、仕事をするうえでも糧になっていると感じる。
- ・患者のアセスメント能力や、それを先輩に伝え必要な支援を得るための能力はかなり養われた。
- ・各領域でのアセスメントを重点的に学ぶことができたため、臨床でも日々のアセスメントを行うことをあまり苦に感じなかった。
- ・自分の考えを言語化して伝えたり、周りの意見を聞きながら方向性を定めてまとめていく過程で、コミュニケーション力を培ったり、複数の情報を自分の中に理解して落とし込み、実践に活かす過程に役立っているように思う。
- ・患者を総合的に捉える視点や多職種連携について学べたこと
- ・他職種とのコミュニケーション方法や繋がり。職場に卒業生がいたことで、業務が円滑に進んだ経験が何度もあった。
- ・同期とのつながり。
- ・日頃の課題や実習などの「わからないことを、どう調べるか」という学ぶ姿勢を作れたこと。
- ・基礎看護学の演習のテストで実技練習をたくさんしたこと。
- ・看護の技術演習
- ・医学的な知識を学ぶことができたのは就職してからもかなり役に立った。特に解剖生理や疾病の機序等は、支援の根拠につながる部分であり、就職してからの学び直しも楽だった。
- ・ボディメカニクスの授業
- ・手書きでたくさん課題があったこと。
- ・複数の課題に取り組む力も身につけられ、仕事の優先順位を立てるのに役立っている。
- ・附属病院に就職したため電子カルテの使用方法を覚えやすかった。

<理学療法学科>

- ・理学療法分野の評価に関する知識・技術
- ・実習で経験した問題点の統合解釈は現在の臨床でも有用である。
- ・PBL など、症例の統合と解釈を少人数で深める活動は、卒後も自分の考察を深めて治療介入を検討するきっかけになったと思う。

- ・臨床実習を通して学んだ一連の理学療法プロセス
- ・保健医療総論で他職種の役割や多職種でのケア方法について学べた。
- ・研究についての知識
- ・ゼミでの英文抄読

<作業療法学科>

- ・人脈や卒後学習グループの紹介がありがたかった。
- ・基本的な知識・技術が学べたことは、卒業後の研鑽の中で専門性を高めていくために役立っていると感じる。
- ・基礎医学(特に解剖学)や評価学における知識、経験。
- ・MMT、ROM のテスト、解剖実習、臨床実習後のケース報告や検討が臨床に出て特に活きていると実感している。

III. 雇用者調査：雇用者による卒業生の他者評価

1. DP の評価・到達度(図 5, 表 5)

雇用者による卒業生の DP の評価・到達度については、18 項目中 16 項目において“4. まあそうである”または“5. そうである”が多く、他者評価は概ね肯定的であった。その中でとくに評価が高い項目は、項目 11 [患者 (利用者・住民) と良好な対人関係を築くことができる (平均値=4.27)]、項目 14 [自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている (平均値=4.38)] だった。一方、項目 5 [国際的な視野を有している (平均値=2.99)] と、項目 6 [保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている (平均値=3.24)] は“3. どちらでもない”の回答が多く、相対的に評価が低くなっていた。

学科別にみると、作業療法学科の得点 (平均値=4.11) が、看護学科 (平均値=3.79)、理学療法学科 (平均値=3.77) に比較して高くなっていた。なかでも、項目 2 [人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している (平均値=4.21)]、項目 12 [対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる (平均値=4.12)] において他の学科よりも得点が高くなっていた。

同じ調査項目で行われた 2018 年の調査と今回の調査を比較すると、得点の高いまたは低い項目の傾向は概ね同じであった。得点の変化については、12 項目において今回の調査の得点が前回の得点を上回っていたが、変化は小さく「微増」と言える。しかしながら、項目 4 [自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている (2018 年平均値=3.50, 2023 年平均値=3.76)] は得点上昇の度合いが大きく、項目 9 [医療専門職 (看護師・保健師・理学療法士・作業療法士) として従事するために必要な技術を身につけている (2018 年平均値=3.91, 2023 年平均値=3.70)] は得点下降の度合いが大きくなっていた。

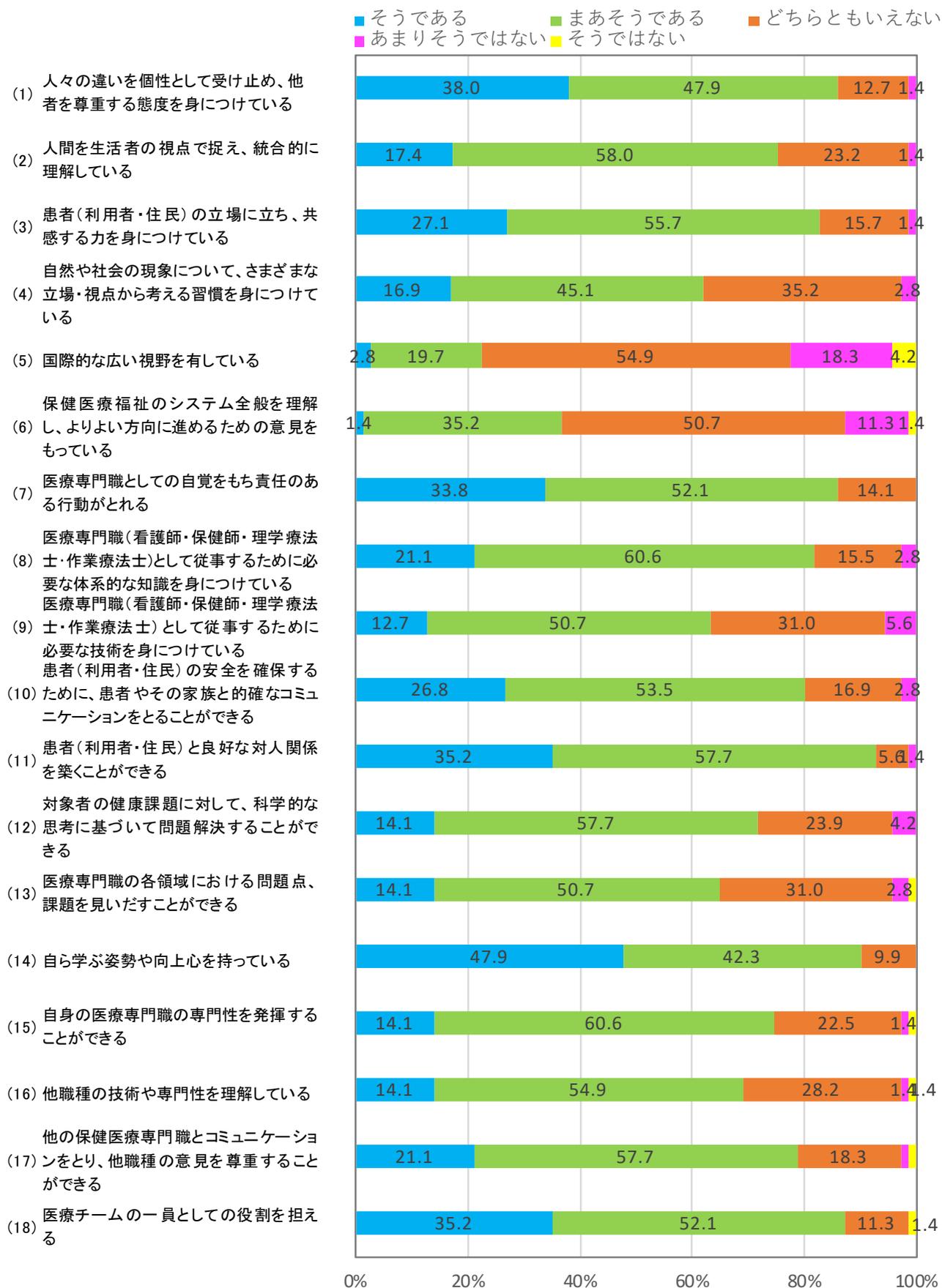


図5. 雇用者による卒業生のDPの評価・到達度

表5. 雇用者による卒業生のDPの評価・到達度（学科別・年度別）

	雇用者 (2023)				雇用者 (2018)
	全体 (n=71)	看護師 (n=30)	理学療法士 (n=16)	作業療法士 (n=25)	全体 (n=58)
(1) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.23	4.03	4.25	4.44	4.15
(2) 人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	3.91	3.79	3.69	4.21	3.88
(3) 患者(利用者・住民)の立場に立ち、共感する力を身につけている	4.09	4.03	4.06	4.17	4.09
(4) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.76	3.70	3.44	4.04	3.50
(5) 国際的な広い視野を有している	2.99	2.80	3.00	3.20	2.98
(6) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	3.24	3.27	3.06	3.32	3.29
(7) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.20	4.20	4.00	4.32	4.14
(8) 医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	4.00	3.83	3.94	4.24	4.07
(9) 医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている	3.70	3.67	3.44	3.92	3.91
(10) 患者(利用者・住民)の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	4.04	3.97	3.88	4.24	3.93
(11) 患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる	4.27	4.20	4.06	4.48	4.29
(12) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	3.82	3.70	3.56	4.12	3.75
(13) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	3.73	3.60	3.56	4.00	3.63
(14) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.38	4.37	4.19	4.52	4.27
(15) 自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	3.85	3.63	3.81	4.12	3.91
(16) 他職種の技術や専門性を理解している	3.79	3.67	3.81	3.92	3.77
(17) 他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	3.96	3.73	3.94	4.24	3.79
(18) 医療チームの一員としての役割を担える	4.20	4.03	4.13	4.44	4.05
平均得点	3.90	3.79	3.77	4.11	3.86

2. 雇用者による卒業生の評価(自由回答：加工済み)

<本学の卒業生が特に優れているもの：看護学科>

- ・積極的に学ぼうとする姿勢がある。
- ・事物を謙虚に受け止め、自ら進んで様々なことに取りくもうとする姿勢がある。
- ・自己研鑽能力、学ぶ姿勢、基本的な能力
- ・学習する力
- ・学習能力が優れている。思考能力が優れている。
- ・学ぶ力
- ・学習の能力・論理的に考える力・発信する力
- ・個人差が大きいので全員ではないが、論理的思考が優れていると感じることがある。
- ・知識がしっかり身についている。
- ・基礎学力が高い人が多いように感じる。
- ・基礎学力は他大学の卒業生よりも高い。学習をつみかさねて、最終的なゴールへ向かうので、理解するまでに多少時間がかかっても、将来的にはのびていく印象がある。
- ・多角的な視点からアセスメントをすること、考える力は優れている。
- ・物事の本質を見ようとする力・考察力
- ・利用者や家族に寄り添う気持ちを持っている。
- ・保健師として、住民・地域を対象に看護や支援を実施するという役割をしっかりと認識できている。
- ・他職種と積極的にコミュニケーションがとれる。

<本学の卒業生が特に優れているもの：理学療法学科>

- ・分からないことがあれば、自ら調べた上で上司・先輩等に相談することが出来る。
- ・他の養成校の卒業生に比べ、学術的な事への理解があり医師とのコミュニケーションにおいて、理解が早い。
- ・基礎的な知識は十分持っており、指導されたことや自ら学ぶことなどの学習能力が高い。
- ・基礎知識の高さ
- ・論理的思考、プレゼンテーション、理解力
- ・基本スペックは高い。考える力や処理能力のレベルが高い。
- ・物事へ取り組む効率性
- ・興味がある分野への思いが強い。
- ・共感と考察力が優れている。
- ・周りの状況を把握し、対応することが出来る。
- ・同僚や患者様に対して気配りができる。

<本学の卒業生が特に優れているもの：作業療法学科>

- ・基礎的な学力が高い
- ・一定の学力的な担保
- ・知識が確かである。
- ・疾患の知識、臨床や治療知識にすぐれている。
- ・自ら課題に気づき、改善していこうという姿勢があり、教育する上で安心感がある。

- ・知識や技術を向上させようという意志がある。
- ・学ぼうとする意欲
- ・知識が豊富で研究心が強い。
- ・知識・技術の探求心が高い。
- ・一般的に能力が高く、向上心なども持ち合わせている方が多い。
- ・常に学ぶ姿勢と意欲
- ・学ぶ姿勢がとてもあり、自分で調べものをしたり、先輩や上司に対して助言やSV（スーパービジョン）を求めたり、患者のために動ける卒業生だと思う。
- ・物事を理論的に考えて行くことができる。
- ・課題を理解し、思考することができる。
- ・指導した内容の理解が早く、業務効率が良い印象があります。
- ・思考の整理・文章構成能力・言葉を適切に用いまとめる力
- ・同僚、多職種との協調性
- ・スタッフ間の人間関係の作り方がとても上手（新卒スタッフの中でも優れている）
- ・周囲の状況を理解して動き、自分から相手のカバーに入れる。
- ・患者中心に物事を考えること。
- ・患者に対して真摯に向き合い対応している。
- ・何事もまず行動に移すことができる。
- ・自身の意見をしっかりと持っている。
- ・謙虚な姿勢
- ・PC操作にすぐれている。

<本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題：看護学科>

- ・他者と協働して課題を解決するためのマネジメント力
- ・看護は処置をすることではないことを教えてもらいたい。
- ・メンバーシップ、リーダーシップ
- ・長期的なキャリアUPについての意欲
- ・対人能力
- ・最低でも5年継続とスキルUPし、教育、指導、リーダーシップがとれるようになってほしい。
- ・メンタル面が強くない人が多いかもしれない。
- ・患者や特に家族の方とのコミュニケーションがなかなかうまく取れない方がいるように感じる。
- ・先輩や他職種とのコミュニケーションについて、自分から発信することが少なく課題となっている方が多々いる。
- ・他職種(他学科)との連携など広い視野をもった学生（卒業生）になるよう教育してほしい。

<本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題：理学療法学科>

- ・組織マネジメント、リーダー教育。
- ・技術面
- ・学生同士で健常者を触れ計測できるようにさらに経験を積んできて欲しい。
- ・興味のあることには突き進むが、やや視野が狭くならないか心配な面がある。

- ・自分の興味、関心以外のことにも目や耳を向けられる広い視野、心を持ったセラピストを育成してほしい。
- ・積極性

<本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題：作業療法学科>

- ・他者(同僚等)への優しさ、理解といった情緒的側面。
- ・知識が自分より少ない人や自分と意見が異なる人等も尊重できる人間性。
- ・就職後の教育、相談先として学校にも支援していただけると非常に助かる。
- ・学生の自己認識を育むこと。自己理解が低いために職場で不適応を起こす場合がある。自分の欠点を認めること、他者に手伝って欲しいと相談できること、どうしたら解決できるかを考えて努力していくことなど人としての成長。
- ・学術的な取り組みで全体をリードしてほしい。
- ・プレゼンテーション能力
- ・人の気持ちに寄り沿う心が大切（よくやってくれている）。
- ・卒後教育：卒業生に如何に学びを継続させるか。
- ・専門職としての患者の全体像をみる力が年々低下している様に思う。1つ1つの評価はできてもなかなか統合することが難しく、卒後教育の重要性を感じる（担うのは現場か?）。
- ・文献を読む力や習慣

IV. 卒業生による自己評価と雇用者による他者評価の比較

雇用者による他者評価と卒業生による自己評価を比較すると、16項目において卒業生の得点が高くなっていた。とくに、項目16 [他職種の技術や専門性を理解している] と、項目17 [他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる] の2項目は、雇用者と卒業生の得点の乖離が特に大きくなっていた。項目5 [国際的な視野を有している] と、項目14 [自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている] は、雇用者の得点が卒業生の得点より高くなっていた。

V. 資料

1. 教育目標、ディプロマポリシー(2013年度策定)

(1) 教育目標

- 1 人間の生命や人権を尊重し、様々な背景を有する人々を生活者の視点で全人的に捉え、共感をもって接することのできる人材を育成する。
- 2 文化や価値の多様性を認識し、社会的な視座で諸事象を捉えることのできる人材を育成する。
- 3 保健・医療・福祉の支えを要する個人・家族・地域社会に対して、対象の特性に応じた専門性の高い実践を行うための知識・技術の基礎・基本を高いレベルで有する人材を育成する。
- 4 専門職としての自覚と責任に基づいて、地域社会に内在する保健・医療・福祉の諸課題に向き合い、現状の改善・改革のために創造的に思考し積極的に行動できる人材を育成する。
- 5 保健・医療・福祉における自らの役割・機能を深く認識し、他職種を含む様々な立場の人々と連携・協働できる人材を育成する。
- 6 専門的能力の維持・開発に継続的に取り組むとともに、高い自己学習力と向上心をもって看護学・理学療法学・作業療法学の発展に寄与する姿勢を有する人材を育成する。

(2) ディプロマポリシー(学位授与方針)

札幌医科大学保健医療学部は、学部の共通方針のもとに各学科が定める所定の単位を修得し、将来の地域医療を担う看護師・保健師、理学療法士、作業療法士に求められる専門性と実践力を兼ね備えた、以下の能力を有する学生に学位を授与します。

1. 建学の精神を実現するための基盤となる能力

- 1) 人権・人格・個性を尊重する能力
- 2) 自然や社会の様々な現象を多角的にとらえ、論理的に思考する能力
- 3) 国際的視野に立ち社会的な諸課題を見つめ、主体的に物ごとに参画する能力
- 4) 私たちが暮らす社会の保健・医療・福祉の改善を志向し、行動する能力

2. 保健・医療・福祉の実践を担う専門職としての能力

- 1) 看護師・保健師・理学療法士・作業療法士それぞれの専門領域に求められる体系的な知識と技術
- 2) 対人関係を築き、発展させるためのコミュニケーション能力
- 3) 専門領域における課題を明確化し、科学的な思考に基づいて問題解決する能力
- 4) 保健・医療・福祉にかかわる様々な人々と連携・協働する能力

(3) 教育目標、ディプロマポリシーと調査項目の対応

設問 番号	調査項目	対応する教育目標 (教)・ディプロマ ポリシー(D)
1	人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	教1, D1-1
2	人間を生活者の視点で捉え、総合的に理解している	教1, D1-1
3	患者（利用者・住民）の立場に立ち、共感する力を身につけている。	教1, D1-1
4	自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	教2, D1-2
5	国際的な広い視野を有している	教2, D1-3
6	保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている	教4, D1-4
7	医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	教4, D1-4
8	医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている	教3, D2-1
9	医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている	教3, D2-1
10	患者（利用者・住民）の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	教3, D2-2
11	患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる	教3, D2-2
12	対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいた問題解決することができる	教3, D2-3
13	医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	教4, D2-3
14	自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	教6, D2-3
15	自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	教3, D2-4
16	他職種の技術や専門性を理解している	教5, D2-4
17	他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	教5, D2-4
18	医療チームの一員としての役割を担える	教5, D2-4

2. 依頼文書・調査票：卒業生調査

卒業生各位

令和 5 年 8 月 4 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価に関する調査
ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学
保健医療学部 学部長 片寄 正樹
医療人育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を数年に一度行っております。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、ご多忙の中恐縮ですが、下記の通り、調査へのご協力をお願い申し上げます。
敬具

1. 調査の目的

2017（平成 29）年度カリキュラム及び、2013 年度に策定した保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DP とする）のもとで教育を受けた卒業生を対象とした調査を行い、卒業生の DP の到達度を評価します。また、在学生や卒業生が勤務する施設・自治体・企業を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

2. 対象者

卒業生：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名

雇用者：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名が就職した施設・企業・自治体の各部門責任者（看護部長・リハビリテーション部門長など）

在学生：2020 年度～2022 年度に保健医療学部に入学者 2～4 年生約 270 名

3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査票の提出をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は無記名で行います。データは統計学的に処理され、個人が特定されることはありません。データはインターネットに接続しない PC またはハードディスクで管理します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は、全学、学部内、医療人育成センター内の会議を通じて関係者に報告されます。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 15 分程度の時間を要します。Web 回答の場合は、環境によりインターネット接続費用がかかる場合があります。

4. 調査期間：2023 年 8 月 4 日～2023 年 8 月 20 日

5. 調査方法

郵送法とインターネット調査の併用となっています。同封の調査票にご記入いただき、郵送で返送するか、右記の QR コードから Web 入力による回答のいずれかをご選択ください。質問紙は全 4 ページ、回答に要する時間は 15 分程度です。



(<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hokegakusotsugyou/main>)

6. その他

DP を含む本学の教育ポリシーは、<https://web.sapmed.ac.jp/jp/summary/03bqho000022u2hy.html>
(または右記の QR コード) で確認することができます。



本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

<問合せ先>

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp (日中・夜間)

電話：代表 011-611-2111 (日中)

担当：山本 武志 (看護学科：内線 23780)

横山 和樹 (作業療法学科：内線 28870)

岡田 尚美 (看護学科：内線 28690)

根木 亨 (理学療法学科：内線 29150)

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価に関する調査

本調査へのご協力をいただきありがとうございます。本調査は、

- (1) 下記にご回答いただき郵送で提出する
 - (2) 右記 QR コードから Web 入力により回答して提出する
- の 2 通りの方法でご回答いただけます。いずれかの方法を選択してください。



1. はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます。あてはまるところに○をつけ、空欄には該当する文言を記入してください。

(1) 性別

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない・左記に該当しない

(2) 入学年度（学籍番号）について、あてはまるところに○をつけてください

- 看護学科： 1. 17N 2. 18N 3. 19N 4. その他（ ）
理学療法学科： 1. 17P 2. 18P 3. 19P 4. その他（ ）
作業療法学科： 1. 17O 2. 18O 3. 19O 4. その他（ ）

(3) 現在の職種（*複数回答可）

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師
4. 理学療法士
5. 作業療法士
6. その他の医療関係職種（ ）
7. 医療関係以外の職種（ ）
8. 学生（大学院生、専攻科学生など）
9. 無職
10. その他（ ）

(4) 勤務形態（仕事をしているかたのみお答えください）

1. フルタイム 2. パートタイム・非常勤 3. 産休・育休などを取得中

(5) 現在の勤務地（又は居住地）

1. 札幌市内 2. 札幌市外（北海道内） 3. 北海道外

(6) 職場の施設種別

1. 医療機関 2. 福祉施設 3. 行政機関 4. 教育機関 5. 民間企業
6. その他（ ）

2. 保健医療学部のディプロマポリシーに関する以下の項目について、現在のあなたの状況に最もあてはまるところに○をつけてください。

No	<共通項目>	そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	5	4	3	2	1
2	人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	5	4	3	2	1
3	患者(利用者・住民)の立場に立ち、共感する力を身につけている	5	4	3	2	1
4	自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	5	4	3	2	1
5	国際的な広い視野を有している	5	4	3	2	1
6	保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	5	4	3	2	1
7	専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	5	4	3	2	1
8	看護師・保健師(理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	5	4	3	2	1
9	看護師・保健師(理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている	5	4	3	2	1
10	患者(利用者・住民)の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	5	4	3	2	1
11	患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる	5	4	3	2	1
12	対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	5	4	3	2	1
13	専門領域における問題点、課題を見いだすことができる	5	4	3	2	1
14	自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	5	4	3	2	1
15	自身の専門性を発揮することができる	5	4	3	2	1
16	他職種の技術や専門性を理解している	5	4	3	2	1
17	他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	5	4	3	2	1
18	医療チームの一員としての役割を担える	5	4	3	2	1

3. 本学のカリキュラムについてうかがいます。最もあてはまるところに○を、空欄には設問に対して自由に記述してください。

(1) 一般教育科目についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうではない	そうではない
1	興味や関心のある科目が設定されていた	5	4	3	2	1
2	コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	5	4	3	2	1
3	自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
4	人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
5	教育内容の重複や不足している点があった	5	4	3	2	1
6	各学年の学習量の配分は適切であった	5	4	3	2	1
7	学習量の負担が大きかった	5	4	3	2	1
8	学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	5	4	3	2	1

(2) 専門教育科目（専門基礎科目、専門科目、統合学習、臨地・臨床実習）についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうではない	そうではない
1	興味や関心のある科目が設定されていた	5	4	3	2	1
2	コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	5	4	3	2	1
3	自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
4	人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
5	教育内容の重複や不足している点があった	5	4	3	2	1
6	各学年の学習量の配分は適切であった	5	4	3	2	1
7	学習量の負担が大きかった	5	4	3	2	1
8	知識と技術が系統的・段階的に学習できた	5	4	3	2	1
9	学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	5	4	3	2	1

(3) 一般教育科目、専門教育科目の学習について良かった点、改善してほしかった点について自由にご記入ください

--

(4) 統合学習の科目についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	保健医療総論の内容が充実していた	5	4	3	2	1
2	地域医療合同セミナーを受講した (あてはまるところに○→)	複数年 ・ 1年間だけ ・ 受講 受講した 受講した しなかった				
3	(地域医療合同セミナーを受講した方に伺います) 地域医療合同セミナーの内容が充実していた	5	4	3	2	1

(5) 保健医療総論の内容、方法について意見があれば自由にご記入ください

--

(6) 地域医療合同セミナーの内容、方法について意見があれば自由にご記入ください

--

(7) 本学の教育の特徴についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	他学科・他学部の学生とともに有機的に学べるカリキュラムが展開されていた	5	4	3	2	1
2	少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った	5	4	3	2	1
3	授業の予習・復習内容が提示され、自発的・継続的に学ぶことができた	5	4	3	2	1
4	学内での学習と臨地・臨床実習は段階的・有機的に展開されていた	5	4	3	2	1

(8) 本学で学んだことの中で、卒業後とくに有用であったことは何ですか？自由にご記入ください

--

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れてご返送ください。

3. 依頼文書・調査票：雇用者調査

各位

令和 5 年 7 月 24 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく
*****学科卒業生の学修成果の評価に関する調査 ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学
保健医療学部 学部長 片寄 正樹
育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を数年に一度行っております。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、ご多忙の中恐縮ですが下記の通り、調査へのご協力をお願い申し上げます。
敬具

1. 調査の目的

2017（平成 29）年度カリキュラム及び、2013 年度に策定した保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DP とする）のもとで教育を受けた本学理学療法学科卒業生が勤務する施設・企業・自治体の管理職を対象とした調査を行い、本学卒業生の DP の到達度を評価します。また、在学生や卒業生を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

2. 対象者

雇用者：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名が就職した施設・企業・自治体の各部門責任者

卒業生：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名

在学生：2020 年度～2022 年度に保健医療学部に入学者 2～4 年生約 270 名

3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査票の提出をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は無記名で行います。データは統計学的に処理され、個人が特定されることはありません。データはインターネットに接続しない PC またはハードディスクで管理します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は、全学、学部内、医療人育成センター内の会議を通じて関係者に報告されます。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 5 分程度の時間を要します。Web 回答の場合は、環境によりインターネット接続費用がかかる場合があります。

4. 調査期間：2023 年 7 月 24 日～2023 年 8 月 7 日

5. 調査方法

郵送法とインターネット調査の併用となっています。同封の調査票にご記入いただき、郵送で返送するか、右記の QR コード（または URL）から Web 入力による回答のいずれかをご選択ください。 質問紙は全 2 ページ、回答に要する時間は 5 分程度です。



(<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hokegakukoyoupt/main/>)

6. その他

DPを含む本学の教育ポリシーは、<https://web.sapmed.ac.jp/jp/summary/03bqho000022u2hy.html>
(または右記の QR コード) で確認することができます



本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

<問合せ先>

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp (日中・夜間)

電話：代表 011-611-2111 (日中)

担当：山本 武志 (看護学科：内線 23780)

横山 和樹 (作業療法学科：内線 28870)

岡田 尚美 (看護学科：内線 28690)

根木 亨 (理学療法学科：内線 29150)

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価に関する調査

本調査へのご協力をいただきありがとうございます。本調査は、
 (1) 下記にご回答いただき郵送で提出する
 (2) 右記 QR コードから Web 入力により回答して提出する
 の 2 通りの方法でご回答いただけます。いずれかの方法を選択してください。



1. 2021年3月～2023年3月の3年間に札幌医科大学保健医療学部*****学科を卒業し、貴施設に就職した*****はおおよそ何人いますか？（既に退職した者も含みます）

a. 0人 b. 1人 c. 2-4人 d. 5人-9人 e. 10人以上

→「a. 0人」の場合は、以上で回答終了となります。ご協力ありがとうございました。

2. 以下の各項目を読んで、2021年3月～2023年3月の3年間に札幌医科大学保健医療学部*****を卒業し、貴施設に就職した1年目-3年目の*****（既に退職した者も含みます）の平均的な素養や臨床能力として最もあてはまるところに○をつけてください。

No		そうである	まあそうである	どちらともいえない	あまりそうではない	そうではない
1	人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	5	4	3	2	1
2	人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	5	4	3	2	1
3	患者(利用者・住民)の立場に立ち、共感する力を身につけている	5	4	3	2	1
4	自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	5	4	3	2	1
5	国際的な広い視野を有している	5	4	3	2	1
6	保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	5	4	3	2	1
7	医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	5	4	3	2	1
8	医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	5	4	3	2	1
9	医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている	5	4	3	2	1

No		そうである	まあそうである	どちらともいえない	あまりそうではない	そうではない
10	患者(利用者・住民)の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	5	4	3	2	1
11	患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる	5	4	3	2	1
12	対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	5	4	3	2	1
13	医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	5	4	3	2	1
14	自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	5	4	3	2	1
15	自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	5	4	3	2	1
16	他職種の技術や専門性を理解している	5	4	3	2	1
17	他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	5	4	3	2	1
18	医療チームの一員としての役割を担える	5	4	3	2	1
19	<p>本学の卒業生が特に優れているものはありますか？自由にご記入ください</p>					
20	<p>本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題について、自由にご記入ください</p>					

3. おわりに、あなたご自身のことについてうかがいます。あてはまるところに○をつけ、空欄には該当する職種・職位を記入してください。

(1) 職種

1. 看護師 2. 保健師 3. 理学療法士 4. 作業療法士 5. その他 ()

(2) 職位

1. 施設管理者・経営者 2. 部長・科長職以上 3. 師長 4. 副師長・主任
5. その他 ()

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れてご返送ください。